

令和5年8月23日

安芸高田市議会議長  
大下正幸様

総務文教常任委員会委員長  
芦田宏治

### 総務文教常任委員会 所管事務調査報告書

本委員会の所管事務について調査した結果を、次のように報告いたします。

#### 記

#### 1 調査事件名 安芸高田市公共交通計画

#### 2 調査の目的

2023年3月に策定された当該計画に関し、計画の概要についての説明の機会を設けること。また質疑を通じ不明確な部分を解消することで、住民からの問い合わせに答えられるようにするため。

#### 3 調査の方法

策定された公共交通計画を精読し、疑問点を整理した上で、質問事項を執行部に通達。説明を受けたのち、質疑により深く追及した。また論拠となるデータ開示を致させた。

#### 4 調査結果

##### 調査項目① 国・県補助金の詳細

- ・国補助金の対象系統→お太助ワゴンの全区域。  
補助金＝補助対象経費の1/2 2022年度は1,204万3,000円。
- ・県補助金の対象路線→収益率が15%以上のお太助バス路線。  
昨年度は17系統が該当し、補助額は674万3,000円。

##### 調査項目② お太助バス、ワゴン、自家用有償旅客運送の現状。

	運行経費	運賃収入	国・県補助金	市負担金	利用者数
お太助バス	82,650,115	14,068,005	6,709,946	52,243,442	296/日
お太助ワゴン	70,879,000	8,445,400	12,047,000	50,386,600	26,297/年
もやい・とろっこ便	9,178,000	566,800		8,611,200	5,971/年

詳細：別紙資料1-2・1-3・1-4

採算ベース（前提条件：2022年実績 国・県補助金や市負担金による補填補填なし）

- ・お太助バス：収支率が最もよい曾我神社線でも約2.3倍以上の利用者数、運賃収入
- ・お太助ワゴン：収益率約8.4倍以上の利用者数、運賃収入
- ・トロッコ便：約18.9倍以上の利用者数、運賃収入

調査項目③北の関宿に高速バスの立ち寄りが少ないとある理由。そもそもの計画と実態の対比。現状改善の可能性

現在、北の関宿への高速バスの立ち寄りにはJR中国バス上下各1便ずつ。

平成15年度に旧美土里町が道の駅の整備。同時に、町内バスの再編を行い、朝夕はスクールバス、日中は町内を走る生活路線バス、また道の駅を起点とし、神楽音前湯治村・ニュージールランド村・たかみや湯の森など観光周遊バスとしての機能する巡回バスがあった。

当時、バス運行事業者等に対して、高速道から道の駅への乗り入れ協議を実施。合併後も継続し、2005年11月10日から翌年の9月30日の間、備北交通による試験的な乗り入れを実施したが最終的には乗り入れに至っていない。

要因は、既に高宮B.Sと美土里B.Sに高速バス停があること。料金所を一度通過しなければならない速達性の課題点と推測。改善の可能性としましては、運行事業者との交渉次第である。

総括：全体的に乗車率は低く、財政負担が嵩む現状が明らかになった。持続的な運営のためには効率化は必須である。お太助バス・お太助ワゴンの運行エリア再編にあたり、住民理解を求めていく必要がある。